

業種	製造業(自動車部品)
活用分野	カーナビゲーションの付加価値化
テクノロジー	スマートフォン

スマホ・カーナビ連携アプリを提供 手元の検索結果で目的地設定が可能に

使い慣れたスマートフォンでカーナビの地図操作や目的地設定が簡単にできる——。このようなドライブに便利なサービスを実現しているのが、デンソーが無料で提供しているアプリケーション「NaviCon(ナビコン)」だ。

情報通信事業部情報通信サービス開発室担当次長の安保正敏氏によれば、もともとはiPhoneとPCの地図連動というアイデアをカーナビ連携へと発展させたという。iOSのBluetooth対応を機に開発に着手し、自社製カーナビの2010年春モデルからiPhoneとのBluetooth接続機能を盛り込むとともに、iPhone向け「NaviCon」をリリースした。

そして、「当初は自社製品のリモコン用として作ったのですが、業界内で広く活用してもらうために画面デザインの見直しやAPIの公開などでオープンプラットフォーム化を目指し、カー

ナビメーカーやアプリベンダーへのアプローチを積極的に進めてきました」(安保氏)という。

Web情報や連絡先住所も目的地に メールでの地点情報共有も可能

従来のカーナビでは、目的地検索用の施設データベースをDVDやハードディスクなどに内蔵していたため、情報の鮮度や量、検索の容易性といった点に課題があった。

「NaviCon」では、スマートフォンの地図上にピンがドロップされた場所、Webサイトに掲載されている地点、連絡先に登録されている住所などさまざまな位置情報をカーナビの目的地設定に利用できる。スマートフォンとカーナビの間はBluetoothもしくはUSBで接続。どちらにも対応していないカーナビでもマップコードの手入力によって目的地を設定できる。

また、「NaviCon」で指定した地点情報(URL)をメールで送信し、目的地の情報を伝達・共有することも可能。例えば、ホテルから予約客に対する確認メールなどで「カーナビ案内」として利用することもできる。

連携アプリの場合、画面上の



デンソー
情報通信事業部
情報通信サービス
開発室
担当次長
安保正敏氏

「NaviCon 連携ボタン」をクリックするだけでカーナビと連動して目的地設定が行える。レジャー施設や飲食店などの検索アプリなら、検索結果から選んだ施設・店の場所を容易にカーナビに取り込めるようになる。

業界内へ順調に浸透 アプリダウンロードは目標100万

対応カーナビは2012年6月時点で計17機種。年内には20数機種まで増える見込みだ。連携アプリもすでに120種類を超えている。4月にAndroid版「NaviCon」も投入したことから、今後はAndroid端末向けのアプリでの連携拡大が期待される。

一方、「NaviCon」のダウンロード数はこれまでに約12万で、当面の目標として100万ダウンロードを見据えている。

「カーナビメーカーやアプリベンダーからは、自社製品の付加価値化を図れる仕組みとして評価していただいています。アプリ利用者にも、スマートフォンの検索結果をカーナビでも利用できる便利さが非常に受けています」と安保氏は話す。今後は国内でのさらなる浸透を図ると同時に、すでに「NaviBridge」の名称で米国に投入している海外版の展開にも注力していく考えだ。



NaviConと
カーナビの
連携

図 「NaviCon」の仕組み

